

彦 聖美

石川県立看護大学 在宅看護学講師

男性介護者のストレス対処能力 **Sense of coherence (SOC)** を高める要因の探索と支援の方略に関する研究—パートナーシップを基盤とした **Community-Based Participatory Research (CBPR)** を通して—

本研究の目的は、男性介護者のストレス対処能力である **Sense of coherence (SOC)** に着目し、男性介護者の **SOC** を高め、地域で男性の介護者を支える方略を考える基礎資料を得ることである。石川県内の男性介護者に対する郵送法自記式質問紙調査を実施し、介護の状況と **SOC** 得点を把握した。また、男性介護者の自主グループとのパートナーシップを基盤とした **Community-Based Participatory Research (CBPR)** を基盤とした支援活動を通して、男性介護者の **SOC** を高める要因を探索した。

質問紙調査の結果、成人期の男性介護者に比べ、65歳以上の男性介護者の方が **SOC** の総合得点、各確信別（把握可能感、処理可能感、有意味感）得点が高かった。また各地域における支援活動を展開した結果、活動の参加観察記録からは把握可能感、処理可能感、有意味感の3つの確信に関連する発言が数多く確認できた。高齢期の男性介護者の **SOC** が高い実態が把握できたことは、男性介護者の強みのエビデンスといえる。この強みの面を伸ばしていくように働きかけていくことが求められる。